

世界淡水魚園水族館 アクア・トト ぎふ 「クラゲに夢中！～きっとあなたも、好きになる♡～」

開催期間：2024年4月13日（土）～2024年7月7日（日）

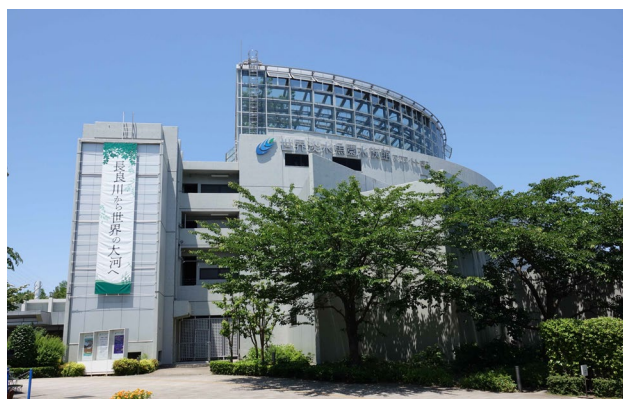


【企画展の内容・目的】

- 海のない岐阜県に位置する当館において、来館者が「海に親しむ」ためのきっかけのひとつとして、「クラゲ」を題材とした企画展を開催した。常時13種類のクラゲを展示し、その多様性を感じ、パネル展示や映像資料を用いて、クラゲの生活史や体のつくり、他の生き物との関わりについても学べるような内容とした。さらに、当館の周辺でも見られる、淡水域に生息するマミズクラゲや、木曽三川の流れ着く伊勢湾で見られるクラゲを紹介し、身近な環境や川と海のつながりを意識できるようなきっかけづくりをした。
- 目で見える展示だけでなく、クラゲに餌を与える、クラゲをかたどった工作をする、クラゲを食べる、などの体験を提供することで、五感を使った学びを促進した。

1. 企画展示の内容

- 開催期間：2024年4月13日（土）～2024年7月7日（日）
- 開催場所：世界淡水魚園水族館 アクア・トト ぎふ 特別企画展示スペース
- 入場者数：119,025人



世界淡水魚園水族館 外観



企画展会場 入口



フォトスポット



「クラゲってどんな生き物？」

企画展の導入として、展示会場入り口にフォトスポットを設置した。水槽の後ろ側にまわり込んでミズクラゲと一緒に写真撮影をすることで、本企画展のテーマである「クラゲ」に親しみを持っていただけるようにした。非常に人気が高く、来館者の多い土日祝日には、順番待ちの列が発生することもあった。

最初のブースでは、「クラゲってどんな生き物？」というテーマで、クラゲの定義（分類や特徴）、エサの食べ方などをパネル展示と映像展示で紹介した。また、ミズクラゲをモデルに、クラゲの体のつくりと生活史を、パネル展示と生体展示で紹介した。体のつくりについては、飼育スタッフが本企画展用にミズクラゲのイラストを描きおろし、その特徴が一目で分かるようにした。生活史の展示では、一般的にイメージされる姿の「成体」のほかに、「プラヌラ」「ポリプ」「ストロビラ」「エフィラ」「メタフィラ」の生活段階を紹介し、クラゲの不思議なライフサイクルを視覚的に学べるような内容とした。「成体」「ポリプ」「エフィラ」は生体を展示し、それぞれの形や大きさ、泳ぎ方などをじっくり見比べられるようにした。



「いろいろなクラゲ」



キャノンボールジェリー

続く「いろいろなクラゲ」のブースでは、7種類のクラゲを展示した。ぴょこぴょこと活発に拍動するキャノンボールジェリーや、長い触手を優雅にたなびかせるアカクラゲ、傘の大きさが5mmにも満たないオオタマウミヒドラなど、姿かたちの異なるさまざまなクラゲを展示することで、その多様性を感じ、それぞれの違いをじっくり見比べられるようにした。また、大人の背丈ほどある大型水槽や円柱水槽を活用し、来館者がクラゲの世界に没入できるような空間演出をした。展示するクラゲの種類は期間中の入れ替えも実施し、リピーターも楽しめるような工夫をした。一部期間では、新江ノ島水族館に次いで2例目となる「ワタボウシクラゲ」の展示を行い、来館者が新たな発見をできるような情報提供をした。さらに、4点の写真と7点の映像資料を用いて、生体展示が難しい種にもフォーカスし、11種類のクラゲを紹介した。



「クラゲと生き物」



映像資料

「クラゲと生き物」のブースでは、「クラゲを食べる」「クラゲを利用する」「クラゲと共に生きる」の3つの観点から、クラゲと関わりのある生き物を紹介した。「クラゲを食べる」では、大海原を泳ぎながらクラゲを食べるアオウミガメや、ギンカクラゲを食べるアオミノウミウシなどの映像を投影し、クラゲがさまざまな生き物の餌生物として重要な役割を持っていることを伝えた。「クラゲを利用する」では、クラゲに隠れてくらすハナビラウオやシマイシガニなどの映像を投影し、毒があり危険なイメージを持たれるクラゲが、実は小さな甲殻類や幼魚のゆりかごのような役割を持つことを紹介した。「クラゲと共に生きる」では、サカサクラゲの生体展示を行い、そこに共生する褐虫藻について紹介することで、生き物の共生関係を知ることができる内容とした。これらの内容から、海の生態系の中でのクラゲの役割を考えるきっかけとなるような展示とした。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



「身近なクラゲ」



「マミズクラゲ」

最後に「身近なクラゲ」というブースで、マミズクラゲおよび伊勢湾で見られるクラゲを紹介した。

マミズクラゲは日本各地の池や湖などの淡水に生息するクラゲで、当館の目の前を流れる木曽川でも発見されたことがある。しかし一般的な知名度はそれほど高くなく、「クラゲは海の生き物」という認識の人も多い。本展示により、クラゲが淡水域でも見られるという意外性や、身の回りの環境でも見つかるかもしれないという期待により、身近なフィールドへの興味を掻き立てられるようにした。

また、伊勢湾で見られるクラゲを、身近な海のクラゲとして紹介した。当館は常設展示で木曽三川の生き物を紹介しているため、その木曽三川が流れ着く「伊勢湾」という地名を具体的に出すことで、来館者が川と海のつながりを意識できるようにした。クラゲはスタッフが実際に伊勢湾で採集したものを展示した。常時3種類の展示を行い、さらに、パネル展示で、誰でもできそうなクラゲの採集方法も併せて紹介することで、海への興味関心を高められるような内容とした。

【来館者の声】

○アカクラゲ可愛かったです！その他にもみたことないクラゲがみれて、良かったです！子どもから大人になるまでの過程の展示も良かったです！海は海でも、水温や、深さ、地域で生息する生物がちがったり、淡水（川）にも生息するクラゲがいるのに驚きました！たのしかったです。

○くらげはプランクトンだとしりました

○クラゲが大好きで、アクアトトでたくさん見れて嬉しかったです。クラゲを食べる魚や、クラゲがクラゲを食べる映像を子ども（4才、クラゲ好き）が食いいる様に見ていました。捕食シーンは見たことがなかったのでおどろきました。生態系の一部なのだと実感できました。

○クラゲがとてもキレイでステキで心がいやされました。広大な海の中にもこんなにも小さな生物もいるんだねと子供と話せました。

2. 関連事業の内容

■クラゲのごはん!!

【開催日時】 2024 年 5 月 26 日 (日) 10:00 ~ 11:30

2024 年 5 月 26 日 (日) 13:00 ~ 14:30

2024 年 6 月 23 日 (日) 10:00 ~ 11:30

2024 年 6 月 23 日 (日) 13:00 ~ 14:30

2024 年 6 月 23 日 (日) 17:00 ~ 19:00

【開催場所】 世界淡水魚園水族館 多目的ホール、特別企画展示スペース

【参加者数】 40 組 100 名

【実施内容・目的】

- ミズクラゲへの給餌を体験できるイベントとして開催した。クラゲの分類や体のつくりなどについてのレクチャーを行ったのちに、参加者自ら手を動かして給餌を行い、間近でじっくり観察できるような内容とした。



開催場所の全景の様子



レクチャーの様子



ブラインシュリンプの観察



ミズクラゲへの給餌

主に小学生以上を対象に、ミズクラゲへの給餌を体験できるイベントとして開催した。最初に、クラゲとはどのような生き物か、どのようにごはんを食べるのか、クイズを交えながらレクチャーを行った。その後、餌生物であるブラインシュリンプを顕微鏡で観察し、参加者へ配布した。ケースに入れたミズクラゲも配布し、各席にてスポットを用いてミズクラゲへの給餌を体験していただいた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



ミズクラゲへの給餌



摂餌の様子の観察

ミズクラゲは半透明の体をしているため、触手で餌を捕らえると、口腕を使って口へ、さらに胃へと運んでいく様子がよく分かる。その様子をじっくり観察しながら、また、その場で疑問に思ったことをスタッフと積極的にコミュニケーションをとりながら解決していくことで、クラゲの体のつくりを学べるようにした。

さらに、クラゲが餌を体内に取りこむまでの間に、さらなる話題提供として、クラゲの飼育方法や生活史に関するレクチャーも行った。参加者の積極性は非常に高く、クラゲの摂餌に関する内容はもちろん、そこからさらに飛躍して、クラゲの寿命や飼育のコツ、他の種類のクラゲについてなど、最後まで質問が絶えなかった。



企画展示ブースの給餌観察



企画展示ブースの給餌観察

6月23日17時からの回は「ディナータイム」と称し、通常のみずクラゲへの給餌体験に加えて、閉館後の企画展示ブースへの給餌を観察いただいた。飼育員が普段行っている給餌の仕事にも興味を持っていただけた。また、アカクラゲが長い触手で餌を捕らえて口へと運んでいく姿など、普段は見られない様子に大変好評をいただいた。

【来館者の声】

○クラゲを近くで見ることができておもしろかった。生きものなのに心臓も脳もないのはびっくりした。自分の意思で泳いだり、ごはんを食べていないので、海の中での生活は大変だろうなーと思った。

○クラゲについて学んで、ごはんをどこから食べるかなどを学びました。

○海を大切にしていかないと生き物がいきられなくなると感じました。海には水流があると知った。

○クラゲのえさやり体験が初めての経験で、とても新鮮でした。まだまだ知らない生物がたくさんいて、不思議な世界だと思った。

■あわたんと学ぼう！えのすいトリーターによるクラゲサイエンストーク

【開催日時】2024年5月19日（日）13：30～14：30

【開催場所】世界淡水魚園水族館 多目的ホール

【参加者数】45人

【実施内容・目的】

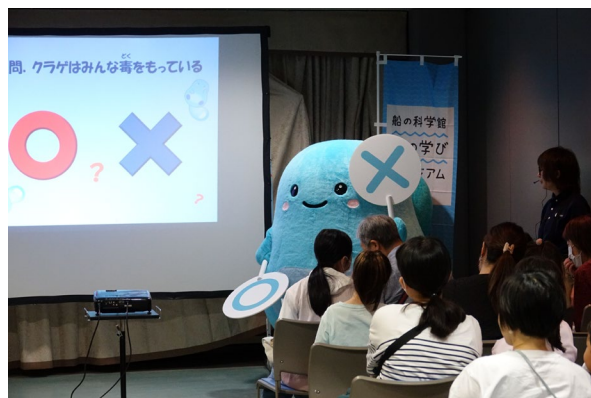
- 企画展のコラボ相手である新江ノ島水族館で実際にクラゲ飼育に携わっている“えのすいトリーター”2名を講師としたサイエンストークを実施した。トリーターの生の声を聞き、クラゲにいっそう興味を持っていただくこと、そして新江ノ島水族館のクラゲ飼育の歴史や最新の研究成果について掘り下げることで、より深く学びを展開することを目的とした。

※えのすいトリーターとは：生物を飼育（treat）し、お客さまをおもてなし（treat）する、新江ノ島水族館（えのすい）の展示飼育スタッフの呼称。

- 一部時間帯で新江ノ島水族館公式キャラクター“あわたん”が出演し、お客さまと一緒に〇×クイズに参加することで、楽しみながら学べる内容とした。



〇×クイズの様子



新江ノ島水族館公式キャラクター
“あわたん”

本イベントは、新江ノ島水族館とのコラボ企画として実施した。

前半は、新江ノ島水族館公式キャラクター“あわたん”が登場し、〇×クイズをしながらクラゲの基礎知識について学べる内容とした。クイズは全5問出題し、企画展のブース内でも紹介しているようなクラゲの分類、体のつくりなどを内容に盛り込んだ。参加者は正解だと思う方に挙手を、あわたんは〇と×の札を掲げることでクイズに参加した。クイズに主体的に参加していただくことで興味を深め、あわたんと一緒に楽しみながら学べるようにした。



新種発見について語る山本トリーター



足立トリーター

後半は、新江ノ島水族館のクラゲ飼育担当のトリーター2名から、クラゲに夢中になったきっかけ、新江ノ島水族館のクラゲ飼育の歴史や、最新の取り組み、新種発見についての話など、少し深掘りしたトークを展開した。トーク中は一方的に話すのではなく、ときおりトリーター2名と当館飼育スタッフで掛け合いを交えたり、参加者へ質問したりするなど、飽きずに聞いていただけるような工夫をした。参加者の中には新江ノ島水族館を知っているにもかかわらず実際に来館したことのある人はほとんどおらず、どのようなクラゲを展示しているのか、こういった取り組みをしているのか、興味深く聞いていただくことができた。また、最新の取り組みとして紹介した「毎日クラゲ採集」については、イベント実施日の朝にとれたクラゲの情報を現地から送ってもらい、リアルタイムの江の島の海の状況、クラゲの出没状況をお伝えした。

終了後もトリーターへの質問がやまず、“相模湾と太平洋”をテーマにした新江ノ島水族館に興味を持っていただけたことで、新たな海の学びの機会を創出できたと考えられる。

【来館者の声】

○トリーターさんの活動の内容がわかってとても面白かったです。「海の学び」ですが、海以外にもクラゲはいるんだと驚きました。

○あわたんと、〇×クイズをしたのがよかったです。海は、とても大切な物だと感じました。もっとくらげを知りたいです。

○海はとても広く、外国にも日本のような種類のクラゲがいてすごいなあと思いました。

○水ぞくかんの裏がわ、くらげの採集法など知れて楽しかったです。身近な方法でクラゲがとれると知って、今度子供達とちょうせんしてみたいです。ありがとうございました。

■ものづくりワークショップ ガチャポン水族館をつくろう！

【開催日時】2024年5月7日（火）～7月5日（金）平日限定
9：30～17：00

【開催場所】世界淡水魚園水族館 トトラボ

【参加者数】1,566人

【実施内容・目的】

- 生き物に親しみをもつきっかけとなるような自由参加型の工作イベントとして開催した。
- 館内で廃棄されたガチャポンカプセルを材料に使用し、梱包用ロープ等を貼り付けることで、誰でも簡単にクラゲのおもちゃを製作できるようにした。



開催場所の様子



製作風景

生き物としてクラゲを理解することが難しいような小さなお子さまでも楽しめるワークショップを開催することで、クラゲそのものに親しみを感じ、海の生き物に興味をもつきっかけとなるようにした。自分の手を動かしながら工作することで、クラゲの体のつくりを意識していただくことができたと考えられる。また、自分だけのオリジナルグッズを製作することで水族館での思い出づくりができ、自宅に持ち帰って飾ったり身に着けたりすることで、生活の中で海の生き物を意識する効果もあったと考えられる。

【来館者の声】

- 子どもがクラゲづくりに熱中していました。色々なクラゲがいるんだなと実感し、もっと種類が知りたくなりました。
- 川にもクラゲがいることを知り、リサイクルトイでクラゲの作成ができた。プラスチックの削減、環境を守ること（を感じた。）

■クラゲを食べてみよう！

【開催日時】 2024 年 4 月 15 日（月）～7 月 5 日（金） 平日限定
9:30～18:00

【開催場所】 世界淡水魚園水族館併設レストラン「アロワナガーデン」

【参加者数】 約 1,000 人

【実施内容・目的】

- クラゲを「見る」だけではなく「食べる」ことで、食材としての人との関りを紹介できるようにした。
- クラゲを味わい、より身近な生き物に感じていただくこと、そして海の恵みを体感する食育を目的とした。



レストラン「アロワナガーデン」



メニュー「クラゲの春雨あえ」



食事風景



食事風景

水族館に併設されているレストラン「アロワナガーデン」にて、エチゼンクラゲを使用したメニュー「クラゲの春雨あえ」を提供した。来館者が食事を楽しみながら生き物に親しむ機会をつくり、クラゲを「見る」だけではなく「食べる」ことで、食材としても利用されていることを意識していただいた。メニューには簡単なエチゼンクラゲの解説も添え、厄介者に思われるクラゲが食材として利用されたり、海の中では他の生き物の隠れ家になったりと、人や生き物の役に立つ面があることを伝えた。クラゲを通して、海の生き物の役割や相互作用を意識するきっかけとなるようにした。

【来館者の声】

○クラゲが海の中で、色々な役割（餌、隠れ家、移動手段など）を持っていることが分かりました。

○レストランのメニュー、おいしかったです！子どもが図鑑でエチゼンクラゲを調べながら食べていました。いろいろなクラゲのことを知ることができて良かったです。

○クラゲは海では割と重要な役割をしていたということを学びました。

■クラゲのミニ縁日

【開催日時】 2024 年 5 月 3 日（金）～2024 年 5 月 6 日（月）
10：00 ～ 16：00

【開催場所】 世界淡水魚園水族館 多目的ホール

【参加者数】 1,615 人

【実施内容・目的】

- クラゲをテーマに親子で楽しめるような縁日イベントを開催することで、遊びを通してクラゲに親近感を持っていただくことを目的とした。
- クラゲのぬいぐるみを縦横 3 列ずつに並べた金魚鉢に投げてビンゴを目指す「クラゲでビンゴ」、ビニールプールに浮かべたクラゲのおもちゃをひしゃくで掬って模擬的にクラゲ採集を体験できる「おもちゃのクラゲすくい」の 2 つの遊びコーナーを設けた。



会場入り口



会場全景

縁日風の会場レイアウトを作成し、「クラゲでビンゴ」「おもちゃのクラゲすくい」を実施した。「クラゲでビンゴ」は、クラゲのぬいぐるみを縦横 3 列ずつに並べた 9 つの金魚鉢めがけて 4 つ投げ、縦・横・斜めのいずれかでそろそろビンゴを目指すゲームとした。そろった場合はクラゲストラップとシールをプレゼントし、そろわなかった場合もクラゲストラップをプレゼントした。



クラゲでビンゴ



おもちゃのクラゲすくい

「おもちゃのクラゲすくい」は、ビニールプールに浮かべたクラゲのおもちゃをひしゃくで掬う、クラゲ採集を模した遊びとした。うまく掬えた場合も掬えなかった場合も、クラゲのおもちゃを3個ずつ持ち帰っていただいた。

生き物のことがまだ良く分からない小さなお子さまでも、遊びを通してクラゲに親近感を持っていただけるようにした。また、持ち帰れる景品を用意することで、水族館で遊んだ楽しい記憶とともにクラゲを思い出し、海に想いを巡らせることができるようにした。

【来館者の声】

○ビンゴにならなくても景品が貰えてよかった。

○クラゲを身近に感じました。

○色んな種類のクラゲを見ることができたこと。今まで好きだったクラゲがもっと好きになりました！クラゲでビンゴの景品がとても気に入りました。また来たいです。

【事業全体のまとめ】

本企画展は、海のない岐阜県に位置する当館において、来館者が海に親しみを感じるきっかけとなるよう、近年人気も高い「クラゲ」をテーマとして開催した。通常当館には備えていない大型水槽や円柱型的水槽、クラゲ飼育に適したクレイセル水槽などを用いて常時 13 種類のクラゲを展示した。視覚的にもメリハリのある空間演出を実現できたことで、来館者が海の世界に没入できるような企画展となった。また、付帯事業として、クラゲへの給餌体験や工作、クラゲ食の体験などを提供したことで、五感を使った学びが促進され、より身近な面白い生き物としてクラゲを感じていただくことができた。さらに、淡水にすむマミズクラゲの展示や、木曽三川の流れつく伊勢湾で見られるクラゲの展示を通して、来館者が川と海のつながりを意識できるようなしなげづくりをした。実際に「淡水で見られることを初めて知った」「たくさんの生き物がいる海を大切にしたい」という来館者の声もあり、クラゲを身近に感じ、クラゲをはじめとした海の生き物への興味関心を高める効果があったと考えられる。

一方で、海への親しみやすさに重きを置いたために、海の学びのための企画展ということでは、その一助を担うことは出来たが、スペースやボリュームなどの点で、十分ではなかった可能性もある。クラゲを通して、実際に起きている環境問題や、そのためにできることは何か、来館者に提示できていればより一層深く海の学びを展開できたと考えられる。

3. 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 新江ノ島水族館	生体・写真・映像の借用、イベント出張
2. 相模川ふれあい科学館 アクアリウムさがみはら	水槽の借用
3. 学校団体・教育機関	団体利用、広報
4. 山梨県立富士湧水の里水族館	生体譲渡、飼育技術指導
5. 株式会社 GENGE	コラボメニューの提供

4. 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 東海テレビ	「スイッチ！」 2024 年 4 月 29 日
2. CBC テレビ	「花咲かタイムズ」 2024 年 5 月 4 日
3. 中日新聞	「中日新聞」 2024 年 4 月 19 日
4. 岐阜新聞	「岐阜新聞」 2024 年 5 月 3 日

以上